

令和3年度指定管理者制度活用事業 評価シート（こども文化センター）

1. 基本事項

施設名称	宮前区第3グループ(蔵敷・菅生)	評価対象年度	令和3年度
事業者名	・事業者名 特定非営利活動法人あかい屋根 ・代表者名 理事長 丸山 幸一 ・住所 川崎市多摩区長沢4丁目2番1-301号	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績		R2	R3		R2	R3
	1 蔵敷こども文化センター ①年間延べ利用者数	8,770人	12,433人	②年間延べ利用団体数	123団体	161団体
収支実績	2 菅生小学校わくわくプラザ ①登録者数	323人	301人	②年間延べ利用者数	15,087人	16,918人
	3 犬蔵小学校わくわくプラザ ①登録者数	364人	361人	②年間延べ利用者数	16,034人	23,831人
サービス向上の取組	1 菅生こども文化センター ①年間延べ利用者数	12,079人	20,417人	②年間延べ利用団体数	206団体	331団体
	2 稗原小学校わくわくプラザ ①登録者数	210人	230人	②年間延べ利用者数	10,688人	12,422人
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 97,327,478 その他収入 69,505 補償金 1,191,451 合計 98,588,434 2 支出 人件費 90,607,568 管理費 3,381,578 事務経費 5,152,429 その他経費 0 合計 99,141,575 3 差引 -553,141					
サービス向上の取組	利用者のニーズを「365子ども会議」として直に利用者から聞き取りを行うことを基礎とし、声なき声を拾い集めることが全ての職員の仕事と位置付けて運営を行っており、家庭内DVや離婚、問題行動に走る児童の立ち直り支援など子どもの心に寄り添うなど成果を上げている。					

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進が図られているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書に基づき、こども文化センター・わくわくプラザ事業を適正に推進した。事業計画については、感染症対策のため、中止や縮小変更を行いながら、適切に実施した。 ・菅生こども文化センターでは、新たに「のびのびサンデー」を、蔵敷こども文化センターでは「ちっちゃいもんくらぶ」を立ち上げ、親子間の交流が図れる取組を行った。また、稗原小学校わくわくプラザでは、新たに算数の足し算、引き算をマスターするために職員がカードゲームを考案して実施した。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ及びセルフモニタリング	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		セルフモニタリングについて、適切に実施しているか。			
		利用ニーズの把握、セルフモニタリングの実施の結果、業務改善につながっているか。			
	苦情等への対応	利用者からの苦情や指摘事項、意見への対応などが適切に行われているか	5	3	3
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体、地域住民、施設等との連携がなされているか。	10	3	6
施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4	
わくわくプラザの充実	・①わくわくプラザ多世代交流促進事業、②学習タイム、③わくわくプラザメール配信サービス、④「地域の寺子屋事業」との連携(実施していないわくわくプラザにあっては、実施に向けた検討・調整等)について取り組み、わくわくプラザ事業の充実を図っているか。	5	3	3	
(評価の理由) ・利用者ニーズ及びセルフモニタリングについて、日々の利用者からの聞き取りを中心とした「365子ども会議」を実施し、把握した内容を職員会議で検討して、要望の多い事業を増やすなど、細かい要望を含めて運営に反映させている。 ・苦情等への対応について、苦情処理の体制・手順について整備され、相談窓口について利用者へ周知されている。結果として、大きな苦情事案はなかった。 ・特別な配慮を要する利用者への対応について、保護者の気持ちや悩みに沿った対応を心掛け、学校での様子も確認しながら対応するなど、関係機関と連携している。 ・学校及び行政機関との連携について、地域教育会議の事務局となっており毎月1回程度会議を開催し、地域の行事の企画や教育課題ごとの企画を行うとともに地域の課題の共有と情報交換を行っている。 ・施設・事業の広報については、コロナ禍における制約等が生じたが、地域に向けたよりを発行したほか、Facebookやホームページなど多様な媒体を通じ効果的に広報を行った。蔵敷こども文化センターでは、幼児を持つ母親向け情報紙を発行し、小学生向けのセンターだよりには載せることができない幼児向けイベントの紹介や絵本の紹介などを行った。 ・わくわくプラザの充実については、学習タイムの実施、適時適切なメール配信、地域の寺子屋の連携など、わくわくプラザ事業の充実に取り組んでいる。					

組織管理 体制	こども文化センターにおける適正な人員配置	<p>・「仕様書」において定める職員配置の最低基準が遵守されているか。⇒①館長1名配置、②スタッフリーダー2名以上配置、③館長とスタッフリーダーの勤務を割り振らない日が重ならないように配置、④利用時間を通じて常勤職員1名以上配置⑤常勤職員配置1名の場合パートナーを配置、⑥12時30分から18時まで常勤職員2名以上配置(常勤職員を配置できない場合、常勤職員1名につき、パートナー2名の配置)</p> <p>「川崎市契約条例」が遵守されているか。</p>	5	3	3	
	わくわくプラザにおける適正な人員配置	<p>・「仕様書」において定める職員配置の最低基準が遵守されているか。⇒①長期休業日等の開室時間の延長対応、②放課後児童健全育成事業の対象児童以外の利用児童概ね20名につき、チーフサポーター1名以上配置、③参加児童数の多い時間帯に学校の特別教室等を使用して、複数箇所に分かれて事業を実施、④わくわくプラザ事業に、月～金の9:30から18:00まで常勤職員を配置</p> <p>「川崎市契約条例」が遵守されているか。</p>	5	3	3	
	職員の研修体制	<p>職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。</p> <p>職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。</p>	10	3	6	
	個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> こども文化センターの適正な人員配置については仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 わくわくプラザの適正な人員配置については仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 職員の研修体制については、必要な市研修を受講するとともに、職員同士で内容について共有するなど、各職員の対応力の向上の目的とした研修を行っている。 個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。 						
適正な業務 実施	施設・設備の保守管理	<p>安全な施設利用のため、施設や設備(AEDを含む)の保守・点検を適切に行っているか。</p> <p>建築物定期点検及び建築設備定期点検の実施が適切に行われているか。</p> <p>備品等の管理が適切になされているか。</p>	5	3	3	
	利用者の安全確保	<p>利用者の安全を確保するための体制が整っているか。</p> <p>事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。</p> <p>事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。</p> <p>施設の防犯対策に工夫がなされているか。</p> <p>災害発生時に備えた対応が図られているか。</p> <p>災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。</p>	10	3	6	
	<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の保守管理については、こども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。 利用者の安全確保については、安全・衛生・危機管理に関するマニュアルを整備するほか、プレイパークの外遊び遊具も含めた施設・設備の保守点検を日常的に行っている。 					
	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3	
	収支計画・実績	効率的・効果的な支出	<p>「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。</p> <p>効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。</p> <p>支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。</p>	5	3	3
		<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な金銭管理・会計手続について、法人の規定等に沿った適切な会計処理が行われているとともに、会計手続に特に問題となる事実はない。 効率的・効果的な支出について、コロナ禍において先行きが見えない中で、必要なサービス水準を維持しながら適切な支出がなされている。 				

4. 総合評価

評価点合計	63	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

「365子ども会議」をはじめとして、日常の会話やコミュニケーションの中から子どもたちのニーズや悩みを聞きながら、こども文化センター・わくわくプラザの管理運営に長年携わってきた経験を活かし、主体的にイベントを企画して適切に事業運営を行った。当年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う施設の利用制限やイベントの制限、利用自粛要請等を継続し、感染対策を講じながらイベント等を順次再開したが、こども文化センターの利用者数は、前年度に比べ増加したものの、大きく回復するには至らなかった。

宮前区第3グループでは、蔵敷こども文化センターにおいて、「こ文フェスティバル」では実行委員の子どもたちが自ら「おけけ屋敷」を企画し、衣装やおけけ屋敷の部屋の作成を行い、菅生こども文化センターにおいては、新たに工作イベント「のびのびサンデー」を実施し、幼児親子や祖父母、小学生たちが興味を持って取り組めるようにすることで、多世代が交流できる場を創出した。当グループでは、グループ全体の行事だけでなく、各館でも独自に利用者のニーズに工夫しながら応え、利用者とのコミュニケーションを取ることを重視し、職員が屋外遊具を製作・改良して遊びやすい環境を整備するなど、全体として良質なサービスを提供している。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

こども文化センター・わくわくプラザは、新型コロナウイルス感染症の影響により、今後も活動内容の制限や利用自粛を行いながら、新しい生活様式を踏まえて着実に事業を推進していく必要がある。こども文化センターが、子どもを見守り育てる安心・安全な居場所であるとともに、乳幼児から高齢者までの多世代にとって居心地の良い場となるためには、こども文化センターが主体的に学校、行政、地域の団体と連携しながら、多世代交流を核とする地域づくりを進めていくことが重要であることから、利用者をはじめとする地域のニーズを的確に把握し、それに応えられる職員の育成に努めること。また、引き続き新型コロナウイルスの感染状況に応じた対策を講じながら、こども文化センター及びわくわくプラザの効率的・効果的な運営に取り組むこと。